

臨床研究：「呼吸器教室参加者の将来受ける医療・ケアへの思い」

についてのお知らせ

刀根山病院では上記の研究を実施しています。この研究は当院の臨床研究審査委員会での承認を得て病院長の許可を得て実施しています。本研究では、研究対象者に直接文書・口頭で説明・同意をいただく必要は無いと判断していますが、情報を公開することで研究の実施について周知させていただいています。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に試料やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

1. 研究課題名： 呼吸器教室参加者の将来受ける医療・ケアへの思い
2. 研究責任者： 看護部長室 本城綾子
3. 研究の背景

慢性呼吸器疾患は、時に急性増悪を繰り返しながら徐々に身体機能が低下していきます。そのため、患者様は疾患の進行に伴って、在宅酸素療法や人工呼吸、延命治療に関する事など、治療選択の判断を迫られます。しかし、急性増悪で一時的に重篤な状態になっても、治療により回復する場合もあり、予後の予測が難しく、意思決定も困難となります。したがって、患者様が軽症である早期から、将来受ける治療について、患者様の意思を確認していくことが必要です。しかしながら、人工呼吸や延命治療について、通院の場面で話されることは少なく、入院のタイミングなど病状が悪化した時に、医師から初めて患者様に説明されることが多く見受けられます。先行研究でも、呼吸器疾患患者様 99 名に対する「終末期や自分の死について医療者と話をするか」の問いに、72%の患者様が「主治医と話したいが機会がない」「医療者と話そうと思わない」と回答したと報告されており、今後の治療について早期には確認されていない現状です。そこで、呼吸器疾患患者様対象の呼吸器教室において、アドバ

ンス・ケア・プランニング(advance care planning: ACP)の学習を組み込みました。ACPは、将来受ける医療やケアについて、患者様がご家族や医療者と話し合い、自身の希望や価値観に基づいて意思表示し、代理意思決定者を選択し文書に残すプロセスのことです。病状的には治療選択の判断に直面していない余裕のある状態の時からACPを学ぶことで、人生の最終段階における医療とケアについて、十分な検討が可能になると考えます。呼吸器教室では、ACPを学んだ参加者が自由意志により、将来受ける治療・ケアの意思表示文書「私の心づもり」を記入しました。その結果をまとめ、呼吸器教室参加者の将来受ける医療・ケアへの思いについて明らかにし、慢性呼吸器疾患患者様のACPへの取り組みについて検討したいと考えました。

4. 研究の目的・意義

目的は、呼吸器教室参加者の将来受ける医療・ケアへの思いについて明らかにし、慢性呼吸器疾患患者様のACPへの取り組みの示唆を得ることです。呼吸器教室参加者の将来受ける医療・ケアへの思いについて明らかにすることで、慢性呼吸器疾患患者様のACPへの取り組みに着手し、慢性呼吸器疾患患者様の人生の最終段階における医療とケアの質向上につながると考えます。

5. 研究の方法

(ア) 対象となる患者様

ACPを学んだ呼吸器教室参加者

(イ) 研究期間

2017年5月12日 ~ 2017年11月18日

(ウ) 利用する試料・情報の項目と利用目的

試料：診療録情報、「私の心づもり」記入文書、呼吸器終了後に実施したアンケート結果

情報：疾患名、年齢、性別、入院歴、将来受ける医療・ケアへの思い、ACPをテーマにした呼吸器教室の感想

(工) 試料や情報の管理

試料や情報は、当院のみで利用します。

6. 研究組織

この研究は、当院単独で実施されます。

7. 個人情報の取扱い

試料や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所、生年月日など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学術集会で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。試料や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

8. 問い合わせ先

独立行政法人国立病院機構刀根山病院

看護部長室 本城綾子

電話：06-6853-2001 FAX：06-6853-3127

2017年5月8日 第1版